

輸送経済

THE YUSO-KEIZAI

第2872号 昭和24年4月23日 (第三種郵便物認可)

12/1

平成21年
(2009)
(火曜日)
週刊

先手打ち投資・開発

ラサーリンベストメントマネージメント

追加投資でニーズ対応

ラサーリンベストメントマネージメント(本社・米イリノイ州ジェフ・シェイコフソンCEO)は、追加投資と先手投資・開発で差別化を図る。十月二十九日、マルチテナント型大型物流施設「ロジポート流山」II号棟と通過型のB棟を構成する。所在地は千葉県流山市谷西ノ下六十六。常磐道「流山IC」と松田野田道路に隣接。東京外環道「三郷IC」まで約七キロ、国道十六号線まで約五キロ。A棟は地上五階建て、延べ床面積約一万八千四百平方メートル。二階に十五台分のトラックパーラー二機と垂直搬送機二機を設置。一般車十三台、トラック七台の駐車スペースを確保。B棟は地上五階建て、延べ床面積十四万三千四百平方メートル。大型ランプウエーを設置。一般車百七十台、トラック二十台の駐車スペースを確保。



テナントの要望でスペック変更

同社は、テナント業者の要望に応じてスペックを変更する追加投資を行う。空調、シャッターの設置など、細かい要望に対応する。

来年3月までに先手を打つ

不況時にも、空室率を下げずに乗り越えることができたため、同社の財務状態は盤石だ。

「もともと不動産投資のプロとして選んでいるため、立地の良さに自信がある」という。世界同時不況の影響で昨年からの開発が進まなかった物流不動産業界だが、

「今は競争関係が柔らかくなっているため、比較的安価で良い物件の開拓ができる。夏過ぎから徐々に金融機関からの資金調達もできるようになった。来年三月までに先

手を打ってマルチテナント型物流施設の開発を進める(ラサーリン)

今後の業界の見通しについて「立地、スペック、オペレーションが整った良質の物件は面積ベースで全体の三割ほど。まだ少ない。これからも市場は拡大する」と(同)と分析。「昨年の不況のあおりをほとんど受けずに乗り越えられたことが、今後成長できる確信につながった」と(同)。

(奥田 崇志)